



# 帯広西ロータリークラブ 第2264回例会 2019.3.9 会報



■RI第2500地区テーマ■

行動するロータリー、つながるロータリー  
～ロータリーの未来を考えよう～



■クラブ・テーマ■

常識を疑い、可能性に挑戦する

## 2018-19年度国際ロータリー第2500地区第6分区分 都市連合会(IM)

日時：2018年3月9日(土)  
会場：ホテル日航ノースランド帯広



### 開会式



RI第2500地区  
IM実行委員長  
板倉 利男 様



RI第2500地区  
第6分区分ガバナー補佐  
曾根 一 様



RI第2500地区  
帯広東ロータリークラブ  
益子 裕之 会長



帯広市長  
米沢 則寿 様



RI第2500地区  
ガバナー  
細川 吉博 様



RI第2500地区  
帯広東ロータリークラブ  
加藤 武志 副会長

### 点 鐘

第6分区分ガバナー補佐

曾根 一

### 開会の辞

IM実行委員長

板倉 利男

### 国歌斉唱

ソングリーダー

加藤 肇

### ロータリーソング斉唱

「奉仕の理想」

### 来賓及び参加クラブ紹介

第6分区分ガバナー補佐

曾根 一

### 主宰者挨拶

曾根 一 第6分区分ガバナー補佐

改めまして主催者としてご挨拶をいたします。IM開催にあたり、このように大勢の皆様方にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。先ほど実行委員長からもお話がありましたが、本日は、お二方の講演のみとなっております。まずもって、ご来賓としてお越しいただきました米沢市長、細川ガバナーをはじめとして第6分区分の先輩諸兄・会員の皆様、本日の講師として快く引き受けていただいた和久井薫様、そして成瀬パストガバナー、誠にありがとうございました。また、本日のIM開催に際しまして周到な準備を進めて頂いた我が帯広東ロータリークラブの板倉実行委員長をはじめとする会員の皆様、ホストクラブの音更ロータリークラブの皆様、有難うございます。今回のIMのテーマは、「原点回帰」であります。IMのテーマは簡潔に申しますと、1つ目は会員相互の親睦と知識を広めることであり、2つ目はロータリー情報の伝達と奉仕の理想を学ぶことであります。このことを通して、ロータリーの本来の目的である知り合いを広め奉仕の機会とする。個人・企業として奉仕の理想を実践する。世界的なネットワークを通じて国際理解・親善・平和を推進することです。このように、IMは本来の目的を遂行するために行われるものです。どのような団体活動も、時間を経ていることで、次第に本来の目的が見えにくくなります。そんな時、創立の理念・創立の原点を見つめなおすことで、何のための活動なのかということ、本来の目的を思い起こすことができます。本日の学びをきっかけにいただき、少しでも原点を振り返る時間を持ていただければ幸いです。本日のIMが皆様にとって有意義なものとなることをご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。よろしくお祈りいたします。



会長 佐藤 聡  
幹事 小谷 典之

副会長 内海 仁司  
副会長 渡部 省一

会場監督理事 田中 耕吾  
プログラム委員理事 谷脇 正人

発行：広報委員会  
委員長 菊池 俊博 (副)松田 貴史



## 歓迎の挨拶 益子裕之 帯広東ロータリークラブ会長

皆さんこんにちは。ホストクラブを代表して、歓迎の挨拶をさせていただきます。第6分区の皆様、ようこそIMへ。曾根ガバナー補佐のご指導の下、音更ロータリークラブの皆様と、本日のIMの準備を進めてまいりました。皆さんもよくご存じのとおり、ロータリークラブはこの地域で多くの人たちと繋がるチャンスを与えてくれました。その先にある奉仕は、困難と変化の連続でございます。私たちが暮らすこの地域は、南北100キロにも渡るとても広く・遠く・人口・経済・気候までも違って感じるような地域でございます。しかし、私たちが求められている持続可能な変化への取り組みは、IMを機にして皆さんとともに学びの場としていきたいと考えております。市内5クラブの連動により、今年ポリオ撲滅の展示会を行いました。地域の繋がりが新しい活動を生み出していくことの気づきを与えてくれました。どうか新しい時代に向かって、本日開催されるIMを良い機会としていきたいと考えております。最後に、行き届かぬ点、また準備不足の点が多々あるかと思いますが、ロータリーの友情と好意に免じてご容赦いただければと思っております。最後までどうぞお楽しみください。本日は、有難うございました。

## 来賓の挨拶 帯広市長 米沢則寿 様

## ガバナー挨拶 RI第2500地区ガバナー 細川吉博 様

皆さんこんにちは。今日は、春らしい一日でありまして、週末のお忙しいと思われるところ、全員登録で300名を超える皆様方にお集まりいただきまして、このIMが開催されますこ

とをお喜び申し上げます。また、ご公務が大変お忙しい中出席賜りました米沢市長様、有難うございます。皆様もご存じのように、先ほどから出ておりますIMの目的というのは、一つの都市の中におけるロータリアンが一堂に集まることにより、ロータリー情報を共有し、そのロータリー情報を身につける。そして、ロータリアン同士が親睦を深めあい、その結果の行動がロータリーの奉仕としての行動に繋がる。私たちの親睦に繋がるということを目的としております。第6分区におきまして曾根ガバナー補佐のご指導の下、この地区のインスピレーションを多くの皆さんに勧めてこられたと思っております。IMを開催するにあたり曾根ガバナー補佐の指導力はもちろん、帯広東ロータリークラブや音更ロータリークラブの皆さんのご尽力があつてのことと敬服いたします。そして、成瀬直前ガバナーにロータリーのご見識をお話ししていただくという大変貴重なこととございますし、STVの和久井薫さんには47年間におけるアナウンサーとしてのいろいろな経験や実績をお話ししていただくということで、是非私たち自身の職業に生かすことも含め学びの場になればと思っております。また、後ほど閉会式では、所感ということでお話をさせていただくことがありますが、いろいろとロータリーを回ってきた私自身の思いもありますので、今日のご講演を聞かさせていただくうえでお話をさせて頂ければと思います。今日のこの時間が皆様にとって、ロータリアンとして有意義な一日となりますよう祈念いたしましてガバナーの挨拶とさせていただきます。本日は、誠に有難うございます。

## 謝辞 加藤武志 帯広東ロータリークラブ副会長

## 基調講演

### 「My Rotary Life」

私のロータリー人生、今のロータリー、これからのロータリー

RI第2500地区パストガバナー

成瀬則之様（網走RC）



## 特別講演

### 「アナウンサー人生47年〜テレビ・ラジオの裏側」

株式会社札幌映像プロダクション

フリーアナウンサー 和久井薫 様



## ガバナー所感 RI第2500地区ガバナー 細川吉博 様

皆様、長時間にわたりまして大変お疲れさまでした。最初にお話しされましたが、曾根ガバナー補佐から今回は宴会が無ということでした。正直言って、どの程度皆様方がお集まりになるか未知数だったのですが、本当に多くの皆さんに集まっていた頂き、皆さんのロータリーに対する勉強熱心さがわかるのかなあと感じました。先程成瀬直前ガバナーからロータリーの現状と今後のこととお話しいただきました。職業奉仕に対する考え方はいろいろとあると思いますが、少しお話をさせて頂きたいと思います。また、和久井薫さんのお話の中で、いろいろなお話がありましたが、その一つに吉村選手のお話がありました。私はちょうど北大病院に3年目の研修医としていて、その時は手術日だったので回復室へ行くと、ずいぶんとでかい人がベッドに寝ていたんですが、顔を見ると吉村選手でした。そのまま東京へ帰るということで、玄関まで送ろうということになり、玄関まで送りました。玄関前にはカメラも当然あるわけで、普段何もしない体のでかい婦長さんがその時ばかりは先頭に立って車いすを押してカメラの前へ行き映っていたので、この人はすごい人だと思ったことを思い出しました。また、長嶋さんのフグの話は有名で、試合で札幌へ来ると北大病院へ来て、北大の整形の先生で故人となっていますが巨人ファンの松野先生と一緒にフグを食べに行っていました。長嶋さんは、箸1本でフグを皿の半分持って行くという有名な話がありました。そのくらいフグを食べるのは豪快な方だったという話を思い出しました。

今日のIMにおきましては、「原点回帰」という曾根一ガバナー補佐の1つの目標の中で、「インスピレーションになろう」そして地区の「行動するロータリー、つながるロータリー～ロータリーの未来を考えよう～」ということで今年度の活動をしてまいりました。皆さんもご存じのように、ロータリーというのはもともと職業人が集まった互恵団体です。自分達が自分達の職業を通じて利益を得ている人たちの団体です。お互いに誰誰にいくらの発注をしたとか、誰誰からいくらのお金をいただいたとかというのが、もともとのロータリーの考え方です。そしてそんな中から親睦が生まれた。当初のロータリーは、互恵団体で親睦の団体であったわけですが、その中から奉仕という考え方が出てきています。今のロータリーはといったなら、皆さんは奉仕と親睦の団体で、奉仕の理念を実現する団体だと言われます。他者への貢献は、奉仕でありますし、生き生きとした会員の活動・交流というものが親睦なのです。

先程成瀬直前ガバナーが仰っておりましたが、2年未満の会員が年間15%も退会しております。15%といえば世界では、18万人ぐらいが退会していることとなります。次の年のまた18万人が入ってくる。ですから人数的には、変わっていない。日本でも、少し減って一時9万人を割りましたが、現在は9万人をわずかに超えています。やめては入り、やめては入ると



いう状況です。そんな中で、クラブを回っている時にも言わせてもらいましたが、クラブの活性化を考えたときに、活性化のためには何が必要なのかと言ったら、そこにはクラブの会員が必要である。クラブの会員を増やすことは、ただ単に人数を増やすということもあるかもしれませんが、高齢化が問題だから若い人を入れようとか、女性の活躍の場が多いから女性会員を増やしようというような形でやってきました。ロータリーの活性化のためには、会員増強という言葉が必ず出ます。でも15%の会員が2年未満でロータリーを去っていくということで、今までと同じようなことをやっても、底の抜けたバケツに水を汲んでいるだけです。今日のIMを通して皆さんと考えたいのは、私たちは何のためにロータリーにいるのかということです。親睦と奉仕という2大車輪だけで入会するのかということです。皆さんがロータリー活動をするときに、「ロータリーって何ですか?」って言われたら、「親睦と奉仕です。」と答えるかもしれませんが、それだけで新しく仲間になってもらえるのでしょうか。2580地区東京の東側の地区大会に行ったとき、千ヶ崎湘南RCのバスターガバナーでRI会長代理の松宮剛さんが以下のようなお話しされておりました。親睦と奉仕はもちろん必要です。これがなければロータリーの意義がない。ただもう一つ必要なのは、利益であると。私たちがロータリーをするうえで、私たちに何の利益があるだろうということをしっかりと考えていく必要がある。その利益とは、ロータリーを通じてお金を儲けるということだけではなく、何の利益を得れるのかを考えることが大事ではないか。私たちは、職業に対してしっかりとした考え方でつまり職業奉仕という考え方を持ち続ける。その持つこと自身が、経済的にも利益もたらされる。そのことが、私たちがロータリーをやっていくもう一つ大事なことなのではないでしょうか。クラブの活性化について、ただ単に人を入れることだけではなく、私たち自身がロータリーを理解し、ロータリーがどういうものなのかをキチンと心の中に持ちながら進めていくことが必要だと思っています。クラブの柔軟化がということが、ロータリーにとって良かったことなのか。例えば、週一回の例会を隔週に行ったりということも、ただ例会として集まる時間が減っただけで、ロータリーを通じて得られる利益にはつながっていない。

今年の規定審議会でも、職業奉仕というものは無くなると思います。職業分類は残りますが。日本のロータリアンは、職業奉仕を自分たちの信念として、ロータリー活動をしてまいりました。その職業奉仕こそが、正しい道で利益を得られる一番の方法ではないのかなと思う。よくいろいろな会社が不祥事を起こして、会社の代表や社長が頭を下げています。ロータリーのバッジこそ付けていませんが、多分この人たちはロータリアンだろうなと思うこともあります。バッジを付ける付けないの問題ではありませんが、ロータリーのバッジにきちんとした誇りを持ってもらいたいと思う。クラブ訪問した折に、副幹事からカーネルサンダースはロータリーバッジをつけていると聞きました。すべての店の前にバッジをつけて

立っています。ロータリーとしてのステータスがあって、誇りがあるからこそ付けているのだと思います。私たちは、決してロータリークラブの会員というだけでなく、ロータリアンとしてなれるよう分区から地区から日本から世界に繋いで、皆さんとともにロータリー活動をしていきたいと思ひます。

本日のIMは素晴らしいIMでした。曾根ガバナー補佐のリーダーシップの下、音更RC・帯広東RCの皆さんのご尽力の賜物だと感謝しております。成功裏に終わりましたことを心よりお喜び申し上げます。そして、これからも皆さんとともにロータリー活動を活発に成就していきたいと思ひます。本日はありがとうございました。



▲花束贈呈 音更 RC



▲IM冊子

#### 主催者謝辞

曾根 一 第6分区ガバナー補佐

皆様今日はどうもありがとうございます。お陰様を持ちまして、残りあと少しとなりました。私ガバナー補佐にとって、最大の事業のIMでございます。大変緊張の中でスタートさせていただきましたが、大変大きなインスピレーションを頂きましたし、これを他の場所でアウトプットできればいいなと思ひています。また、パストガバナー補佐で実行委員長を務めて頂きました板倉利男会員、IM実行副委員長で幹事として事務局長をしていただきました加藤昭治会員をはじめとする益子会長以下帯広東RCの皆様、コホストクラブを務めて頂きました村瀬会長以下音更RCの皆様に感謝を申し上げます。また、市内のみならず十勝管内遠くからもご参加をいただき、IMを盛り上げて頂きました第6分区の皆様への友情に深く感謝いたします。また、講師の和久井様、パストガバナーの成瀬様には遠くからお越しいただき、貴重なお話を伺いました。成瀬パストガバナーからは、ロータリーとは何かという問いかけがありました。何が私たちをここに置いているのかという答えを成瀬パストガバナーのお話から見たかなという気がいたします。また、和久井様のお話の中では、自分で自分の道を決めていくしかないというお話が前半にありました。吉村選手のお話がありましたが、細川ガバナーとのご縁もあったのだなと改めて聞かせて頂きました。吉村選手の事故も大変な事故でしたが、それをどう解釈していくかによって、その後の人生が変わっていくのだなあと。それが、自分で自分の道を決めていくしかないという冒頭の部分に繋がっていく



のかなあと思ひながら聞かせて頂きました。

ただいま細川ガバナーから所感をいただきましたが、職業奉仕のお話がありました。成瀬パストガバナーからもお話がありましたが、私たちは職業を通じて何をしようとしているのか。利益というお話がありましたが、もちろん金銭的なものだけではなく、どういう利益を求めてここに集っているのか、何のために活動に時間を割いているのかをお話を聞いて、いま一度振り返ってみたいと思ひているところです。パストガバナーの皆様、分区代理の皆様、ガバナー補佐の皆様、多大なるご指導をいただきました。重ねてお礼申し上げます。

私たちは幸いなことに、この世に生を受けることができました。この頂いた命に関する感謝の気持ちをこの後の人生においてお返ししていく使命があるのではないかと思ひています。それをロータリアンとして活動していくことで、その使命を実現することができたなら、とてもありがたくうれしいことだと思ひます。本日ご参加いただいた皆様方が、本日のこの学びを今後のロータリー活動に反映頂ければ、これに勝る喜びはありません。皆様のさらなるご活躍とご健勝を祈念申し上げながら、はなはだ楚辞ではございますが、閉会にあたり私からの挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

#### 次年度ガバナー補佐紹介

曾根 一 第6分区ガバナー補佐

#### 次年度IMホストクラブ会長挨拶

帯広西ロータリークラブ 若林 剛 次年度会長

帯広西ロータリークラブ次年度会長の若林です。まず、次年度ガバナー補佐の大友会員が本来ならば初めて皆様方にご挨拶するタイミングだったのですが、残念ながら出席が叶いませんでした。結果として、ご挨拶がクラブ訪問まで伸びてしまうことを重ねてお詫び申し上げます。次年度IMは、清水RC・上土幌RC・そして私ども帯広西RCの3RCの合同にて開催をいたします。今年の素晴らしいIM、また多くのロータリアンの参加がございました。来年も負けずに素晴らしいIMを計画してまいりたいと思ひます。今日出席の皆様、そして願わくはさらに多くの皆様方の参加を期待しております。来年お待ちしております。有難うございました。



#### 閉会の辞

音更ロータリークラブ 村瀬正明 会長

#### 点鐘

曾根 一 第6分区ガバナー補佐